



希望の未来へ！あなたと市政のかけ橋に すずらんジャーナル

船橋市議会議員

市民相談はお気軽に

はしもと 和子

公明党控室 047-436-3032

2018年 第53号

発行 橋本 和子



船橋市は東京2020オリンピックにおける「アメリカ合衆国」のホストタウンです。

アメリカ男子体操チームの事前合宿が、市船第3体育館で行われました。



金杉小学校の外階段にスロープが完成！



完成間近

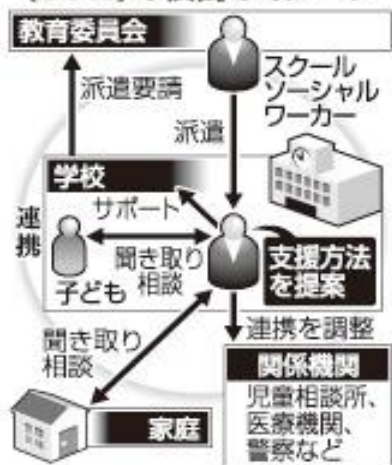


避難所運営協議会・ひまわり憩いの広場の会・地区連・学校等多くの方からスロープ設置の要望があり、数年かかりましたが、立派なスロープが設置され喜ばれています。車いすも通れます。

0歳から18歳まで、切れ目のない支援と家庭支援

今年度、スクールソーシャルワーカーを導入し、福祉分野にも関わる体制ができました。しかし、SSWは、問題が発生した時に、学校長から依頼があり、動きます。また、要保護児童対策協議会があり、虐待や育児放棄など問題を抱えている家庭に対し、関係部署が協議していることも、承知しています。しかし、これらは、問題が起こってからです。私は、ここに至らないうちに、予防の観点から、支援していく事が大切だと考えます。

スクールソーシャルワーカー
(SSW)の役割のイメージ



本市では、15歳～18歳を把握する部署がありません。把握は難しいものがありますが、この頃になると、貧困に関係なく、悩み苦しんでいる子がいます。犯罪に巻き込まれないように、見守りながら、支援をしていく必要があります。

様々な諸課題について、組織の在り方も含め、0歳から18歳まで切れ目のない支援と家庭支援を考えるべきと思うので、市長はどのように考えるか伺いました。



0歳から18歳まで切れ目のない支援を行い、子どもをサポートしていく体制を作ること
は重要と認識している。

本市では、妊婦全数面接から始まり、就学前まで保健師が中心となって支援をすす
めている。就学を迎える際に、支援が必要な子どもに対しては、所管部署につなげ、
切れ目のないよう支援の継続を図っているが、積極的な支援を必要としない子どもに対
しては、その連携が十分とは言えず、課題があるとも思っている。

こうした課題を解決するため、こどもの情報を切れ目なくつなげる仕組みづくりが必要
であり、保健所・子育て支援部・教育委員会へと子どもの情報と支援が途切れず、かつ
関係部署との連絡調整も図る「子育て世代包括支援センター」の設置を考えている。

子育て世代包括支援センター

保健所・児童相談所・公民館・学校・保育所や幼稚園・子育て支援機関・医療機関・保健所・NPOなど関係機関は多いが、個別の対応となっている。

必要な支援が、必ずしも切れ目なく提供できていないため、関係機関の連絡調整を行い、必要な支援を切れ目なく提供する支援センターです。



本市では、平成31年度中に設置を検討しています。

妊娠届出時の妊婦全数面接等で得た情報を入り口として、継続的に妊産婦・乳幼児の実情を把握し、母子保健・医療機関・児童福祉・教育等の関係機関の事業との連携を図り、切れ目のない支援を行い、安心して子育てができる体制を作ります。

発達障害には、「見た目」の分かりづらさがあると言われています。発達のアンバランスから「できる事」「できない事」の差が極端な場合もあり、「できる」という一面だけでその子を見てしまうと、「できない事」イコール「本人の努力不足」「親のしつけの問題」などと誤解されてしまいます。周囲からの理解が得られず、苦悩の闇をさまよう親も少なくありません。他の子とどこか違う。誰かに相談したいと思う反面、「認めたくない」と言う気持ちもあり、葛藤しています。子育てに悩むお母さんたちは、誰かに聞いてほしいと思っています。まだまだ、支援が行き届いているとは言えません。今必要なのは、地域社会の中に、ともに子どもを守り、母親を励まそうとする、人間のネットワークがあるかどうかです。行政としても切れ目のない支援に取り組んで頂くことを要望しました。

2018年度から高校の通級指導が教育課程に加わりました。

45都道府県5政令市の計123ヶ所で順次開始されています。

千葉市立稲毛高校で開始したことを知り、千葉市の教育委員会に状況を伺ってきました。入試を受け、合格した生徒で、授業は一般の人と同じで、そこに1枠増やし、通級指導を受けるので、通常級の生徒との交流というよりも普段から同じように過ごしています。

子どもが中学生になると、その先の進路を考える保護者が増えてきます。

中学校卒業後の生きづらさを感じている子ども達のために、市立船橋高等学校に通級指導教室を設置することについてどのように考えるか伺いました。

市船では、特別支援教育コーディネーターの配置や、教育支援部の設置などを通して、特別な支援を要する生徒への適切な指導や必要な支援の充実に努めている。



©NEW KOMEIIO

平成30年度より県立高等学校2校が研究指定を受け実施開始。地域の広がりや要望等を踏まえ、平成32年度までに県内数校程度で実施すると広報されています。

はしもと 和子 090-5574-9079

ホームページ hashimoto-kazuko.jp

facebook

twitter

市政に関するご意見・ご要望をお寄せください。

S.35年 長野県軽井沢町生まれ 小諸商業高等学校卒業

八十二銀行入行 S.57年より船橋市在住 H.27年より保護司

